

## 令和元年第2回 高千穂町議会定例会

## 一般質問通告内容集約書

高千穂町議会事務局

【 5 名 7 件 】

質問日	順	質問者	件数	件名	頁
6月18日(火) 10:00~	1	板倉哲男 議員	1件	1. 高千穂町人口ビジョンと総合戦略について	1
	2	磯貝助夫 議員	1件	1. 駐車場有料化の構想について	6
	3	安在昭則 議員	2件	1. 町立病院の医師不足の現状と医師確保対策について 2. 巨大地震をはじめとする災害対策について	7
	4	坂本弘明 議員	2件	1. 観光200万人を目指す渋滞緩和策と駐車場の確保について 2. 農業法人に対する支援について	9
	5	佐藤さつき 議員	1件	1. 高千穂高校入学者への支援について	11

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
1	板倉哲男 議員	1. 高千穂町 人口ビジョン と総合戦略に ついて	<p>2014年、日本創生会議から、全国で896の市区町村について消滅可能性がある」と発表されました。それを受け、政府が東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げることを目的とした一連の政策である「地方創生」を発表しました。</p> <p>地方自治体においても、人口ビジョンと5年間の施策の方向を示す総合戦略の策定が求められ、高千穂町においても2016年(平成28年)に策定されました。これらは5年おきに見直しと再策定をすることとなっており、今年度がその年度となっています。</p> <p>人口ビジョンと総合戦略の再策定にあたり、以下について、お伺いしたいと思います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人口ビジョンの浸透について</li> <li>(2) 地区別人口ビジョンの必要性について</li> <li>(3) 住民自身による人口ビジョン策定について</li> <li>(4) 地区別人口ビジョンと高千穂町人口ビジョンの関係について</li> <li>(5) 地区別戦略の必要性について</li> <li>(6) 総合戦略における行動目標の重要性について</li> </ol> <p><b>【序論1】人口ビジョンの浸透について</b></p> <p>ビジョンは「ありたい姿」、戦略は「ビジョンを達成するための手段」です。つまり、高千穂町がどのような姿を目指し、その実現のために何をするのかについて明文化したものが、人口ビジョンと総合戦略です。これらは明文化されるだけでは意味がなく、関わる全ての人の中に浸透しなければ意味がありません。</p> <p>何をするかについては、それぞれの立場により異なりますので、総合戦略のすべてが浸透するのは難しいと思いますが、高千穂町がめざす姿である人口ビジョンについては、町職員ひとりひとり、さらには、町民ひとりひとりにまで浸透することが理想だと思います。</p> <p>しかし、2016年に策定してから今日にいたるまで、人口ビジョンが十分に浸透できているのかというと、町職員の間においても、まだまだ十分ではないと感じます。</p> <p>人口ビジョンを浸透させるための新たな取り組みが必要だと思います。</p>	町長

<次頁へ続く>

1	板倉哲男 議員		<p style="text-align: center;">＜前頁から続き＞</p> <p><b>【序論2】 地区別人口ビジョンの必要性について</b></p> <p>人口減少に歯止めをかけることは、行政だけでできることではなく、住民との協働が必要です。しかし、現状を考えると、住民との協働はまだまだ不十分だと思います。理由として、先述の通り、人口ビジョンが住民ひとりひとりに浸透していないことがあげられます。</p> <p>なぜ人口ビジョンが浸透しないのかというと、現在の人口ビジョンは高千穂町全体の人口ビジョンとなっており、住民にとって自分事としてとらえることが難しいからです。</p> <p>人口ビジョンを多くの住民にとっての自分事とするには、公民館区や小学校区など、より身近な生活圏における地区別人口ビジョンを策定する必要があると思います。</p> <p><b>【序論3】 住民自身による人口ビジョン策定について</b></p> <p>人口ビジョンを住民と共有するための最も良い方法は、住民自身が自らの地区の人口ビジョンを策定できるようになることです。</p> <p>人口ビジョンは、人口の現状と将来の予測を示すものです。</p> <p>人口予測に使われる手法として、「コーホート要因法」と「コーホート変化率法」の2つがあります。</p> <p>国立社会保障・人口問題研究所といった専門機関はコーホート要因法を使っており、日本創生会議の発表もコーホート要因法の人口予測を下敷きにしているそうです。しかし、コーホート要因法は専門性が高く、専門知識のない人が扱うことは難しい方法です。</p> <p>一方、コーホート変化率法は比較的簡単で、専門知識がなくとも扱うことが可能です。そして、どれくらい定住を増やせばよいのか、出生率や転出率の改善を組み合わせた場合どうなるのかなど、具体的な目標を算出することもできます。また、そうした目標について、住民が「これならできる」と思える目標を設定することが、人口ビジョンを浸透させるうえで重要だと思います。</p> <p>以上のことから、コーホート変化率法を用いて、町内それぞれの地区ごとの人口ビジョンを、住民とともに作成すべきだと思います。</p>	町長
---	------------	--	---	----

＜次頁へ続く＞

1	板倉哲男 議員	<p style="text-align: center;">＜前頁から続き＞</p> <p><b>【序論4】地区別人口ビジョンと高千穂町人口ビジョンの関係について</b></p> <p>地区別人口ビジョンをつくるとして、策定する順序は、まず地区別人口ビジョンをつくり、その後に高千穂町人口ビジョンをつくるべきだと思います。</p> <p>なぜなら、それぞれの地区において、地元住民がこれならできると思える目標を掲げた地区別人口ビジョンを合算したものが、高千穂町人口ビジョンとなるべきだと思うからです。</p> <p>もしも、高千穂町人口ビジョンが先にあり、その目標を割り振るトップダウンの形で地区別人口ビジョンをつくったとしても、地区によっては非現実的なものになることもあるでしょうし、何より、住民にとって自分達の目標だととらえることが難しいと思います。</p> <p>そのため、まずはそれぞれの地区別人口ビジョンを策定し、その後に、ボトムアップで高千穂町全体の人口ビジョンを策定するべきだと思います。</p> <p><b>【序論5】地区別戦略の必要性について</b></p> <p>地区別人口ビジョンで地区の目標を設定した後は、その目標を達成するための地区別戦略が必要になります。地区別人口ビジョンと同様の理由で、地区別戦略も住民が策定するべきだと思います。</p> <p>なぜなら、人口減少に歯止めをかけるには、UIJターンによる転入を増やす必要があり、そうした転入者を受け入れるのは、その地区の住民だからです。</p> <p>高千穂町人口ビジョンのなかで、UIJターンのターゲットとして、20～40代夫婦＋子供2名の家庭や、リタイア世代夫婦、若年の単身者を想定しています。</p> <p>それぞれのターゲットが定住するために、自らの地区のセールスポイントが何なのか、逆に弱みが何なのかを整理し、これならできると地区住民が思える取り組みを、地区別戦略として策定すべきだと思います。</p> <p><b>【序論6】総合戦略における行動目標の重要性について</b></p> <p>目標には成果目標と行動目標の2種類があります。</p>	町長
---	------------	--	----

＜次頁へ続く＞

1	板倉哲男 議員		<p style="text-align: center;">＜前頁から続き＞</p> <p>現在の総合戦略には、高千穂町人口ビジョンの達成のための、さまざまな細分化された成果目標が設定されています。一方で、行動目標の視点が弱いと感じます。</p> <p>例えば、総合戦略の中の成果目標の中に、「空き家紹介によるマッチング数が5年間で10世帯」と「転入者数が391人から400人」という目標があります。</p> <p>しかし、その実現のため施策として明記されているものの中に、「空き家を含めた移住者向け住宅の確保・整備」というものがありますが、これだけでは、いつ、だれが、どのような行動をすることで、移住者向け住宅の確保・整備ができるのかが不明確です。</p> <p>多くの成果目標をあげたとしても、それぞれの成果目標を達成するための行動目標にまで落とし込まなければ、絵にかいた餅になってしまいます。今年度策定する総合戦略では、行動目標を明確にする内容であるべきだと思います。</p> <p style="text-align: center;">以上をふまえ、町長にお尋ねします。</p> <p><b>【質問内容】</b></p> <p>(1) 前回策定した高千穂町人口ビジョンが、町職員、住民に、それぞれどれほど浸透しているとお考えでしょうか？ また、今以上に浸透を図るために、どのような取り組みをお考えでしょうか？</p> <p>(2) 高千穂町全体の人口ビジョンだけでなく、地区別人口ビジョンの策定が必要だと思いますが、今年度、策定する人口ビジョンは、地区別人口ビジョンを含めたものにする予定はあるでしょうか？</p> <p>(3) 地区別人口ビジョンを策定するとして、住民自らが人口ビジョンを策定するのが良いと思います。人口ビジョンをつくってみるワークショップのような取り組みを各地区でできればよいのではないかと考えますが、そうした取り組みはお考えでしょうか？</p> <p>(4) 地区別人口ビジョンを策定するとして、まずは地区別人口ビジョンを策定し、それを合算したものを高千穂町人口ビジョンとすべきだと思いますが、地区別人口ビジョンと高千穂町人口ビジョンをどのような順序、関係で策定するお考えでしょうか？</p> <p style="text-align: center;">＜次頁へ続く＞</p>	町長
---	------------	--	--	----

1	板倉哲男 議員		<p style="text-align: center;">＜前頁から続き＞</p> <p>(5) 地区別人口ビジョンが必要だと考えるのと同じ理由で、地区別の戦略が必要だと思いますが、今年度見直される総合戦略において、地区別の戦略を策定するお考えはあるでしょうか？</p> <p>(6) 総合戦略は成果目標だけでなく、より具体的な行動目標を明確にした内容であるべきだと思います。今年度策定する総合戦略について、具体的な行動目標を明記したものにするお考えはあるでしょうか？</p> <p>(7) 公約の一つである「移住・定住対策の充実強化」の実現のために、今後新たに取り組む予定の施策があればお教えてください。</p>	町長
---	------------	--	---	----

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
2	磯貝助夫 議員	1. 駐車場有料化の構想について	<p>先月のゴールデンウィークは10連休で、高千穂町には15万人の観光客が来町したとのこと。どこの観光地も大にぎわいで、高千穂峡のボートにおいては9時間待ちの状況、天岩戸神社の参拝客や天安河原においても大行列をなしている状況で、町長が言われるように年間200万人も夢ではないように思われました。</p> <p>課題としては、渋滞、駐車場の確保、高齢者及び身体障害者への環境改善等があげられると思います。</p> <p>町長が、平成31年度施政方針で「財源の確保」として駐車場の有料化をあげておられました。3件について質問します。</p> <p>1 駐車場有料化の具体的な構想について</p> <p>2 駐車場から観光地（地点）への連動した移動手段（パークアンドライド）、または街中を歩いてもらうための施策について</p> <p>3 高齢者及び身体障害者対応策について</p> <p>それぞれどのようにお考えか質問いたします。</p> <p><b>【補足説明】</b> パークアンドライドとは パークアンドライド（park and ride）とは、末端交通機関である自動車（または原付や軽車両）を郊外の公共交通機関乗降所（鉄道駅やバス停留所など）に設けた駐車場に停車させ、そこから鉄道や路線バスなどの公共交通機関に乗り換えて目的地に行く方法です。 都市部や観光地などの交通渋滞の緩和、交通公害の抑制、違法駐車削減などを図るため交通政策で推進されます。</p>	町長

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
3	安在昭則 議員	1. 町立病院の医師不足の現状と医師確保対策について	<p>高千穂町立病院の基本理念は、「西臼杵地域の中核病院として、地域住民の皆様に安全で質の高い医療を提供するとともに、地域包括ケアシステムを推進する」となっています。</p> <p>しかし近年、医師不足により十分な医療の確立が段々と難しくなってきました。病院はマンパワーによる要素が大きく、医師の過不足が病院の経営に反映されるため、医師の確保が非常に大切です。医師不足はどの市町村でも言われていることであり、大変難しい課題ではありますが避けては通れない問題です。</p> <p>将来の病院経営を考えると、近年の医師不足、診療報酬の削減、そして消費税の増加など、医療を取り巻く環境は以前にも増して厳しいものがあると認識しております。</p> <p>そこで町長にお伺いいたします。</p> <p>1. 医師不足の現状と医師確保の対策について</p> <p>2. 高千穂町立病院は、西臼杵の中核病院として高度医療の提供や地域の拠点として役割を果たすと思われるが、具体的な構想があれば伺いたい。</p>	町長



順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
3	安在昭則 議員	2. 巨大地震をはじめとする災害対策について	<p>2011年の東北地方太平洋沖地震、2016年の熊本の地震とここ10年で震度6以上の巨大地震が2度も発生し大きな被害が発生しています。</p> <p>台風などの風水害はある程度予測できますが、地震はいつ発生するか予測できない災害です。</p> <p>最近日本の至る所で震度4以上の地震が発生しています。近年必ず来るとされる南海トラフ大地震、高千穂は津波の心配こそないものの、建物の倒壊、土砂崩れ等大きな災害は十分に考えられます。</p> <p>その場合、役場職員が率先して動かなければならないと思いますが、そこで町長に次のことをお伺いしたいと思います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職員のうち各種救命講習修了者はいるのか。また、自主防災の強化に向けた住民に対する救命講習等実施する考えは。</li> <li>2. 職員に対し災害時に有効な知識を習得する専門資格の取得を推奨する考えは。</li> <li>3. 災害時の情報伝達の共有手段についての見解</li> </ol>	町長

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
4	坂本弘明 議員	1. 観光 200 万人を目指す 渋滞緩和策と 駐車場の確保 について	<p>平成 29 年は、28 年の熊本地震の影響で観光客入込数は 130 万 2000 人でありましたが、平成 30 年では 140 万 1400 人と回復傾向となっています。</p> <p>利用交通機関では平成 29 年と比較して、平成 30 年は貸切バスでプラス 10.1% (1 万 6400 台増) の 17 万 9400 台、乗用車ではプラス 7.6% (8 万 4700 台増) の 119 万 7200 台、路線バスはマイナス 6.4% (1700 台減) の 2 万 4800 台であります。</p> <p>今年のゴールデンウィークは、今までに経験した事のない 10 連休とあって、連休前より駐車場の確保については本町担当課でも神経を使っておられたと思います。</p> <p>現状では何とか駐車場は確保できたようですが、久しぶりの渋滞が見られたようであり、神殿の住民からも身動きが取れなかったとの声が聞かれました。</p> <p>町長は観光に関する挨拶の中で、高千穂観光の「入込み客数 200 万人を目指す」と話されておられますが、現実問題として 200 万人の観光客の受け入れ体制の整備をどのように考えておられるのでしょうか。</p> <p>単純に計算して、平成 29 年から 30 年にかけて観光客が約 10 万人増加しており、車輛もまた、貸切バス、乗用車、合わせて約 10 万台増加しています。あと 60 万人増加すると考えるなら、60 万台現在よりも増加することになります。</p> <p>200 万人の観光客入込みを達成できないにしても、観光車輛のスムーズな誘導を行うには、将来、誘導員の確保は難しくなります。</p> <p>200 万人の高千穂峡を中心とした高千穂観光を考える上で、シャトルバスを活用した観光体制を整備する必要があると考えますが、町長の考えを伺います。</p>	町長

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
4	坂本弘明 議員	2. 農業法人 に対する支援 について	<p>本町農業は畜産を核として農業全体に元気が出ていてと感じていますが、後継者不足は深刻であり、農業衰退を招き、耕作放棄地を増加させています。</p> <p>そういう中であって、農業法人化に取り組みたいという考え方が増えてきたようです。これは、法人化によって色々な事業を受けられるという事や資金調達など様々な利点があるからです。</p> <p>特に耕作放棄地の解消という点において、畜産は極めて重要な産業と考えられます。</p> <p>本町農業の将来を考えたときに、耕作放棄地の解消と農業の活性化についてわずかでも農業法人への支援はできないか伺います。</p>	町長

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
5	佐藤さつき 議員	1. 高千穂高校入学者への支援について	<p>宮崎県立高等学校整備計画において、平成25年度から平成34年度期間の実質的な高校統廃合の検討が行われ実施されています。</p> <p>この計画は前期、中期、後期に分けて検討が行われており、地元住民が早急には廃校にはならないと思っていた都農高校など、数校の統廃合が決定しました。現在は後期実施計画の検討が行われています。</p> <p>高千穂高校は平成34年度までの対象高校には今のところ該当していないのですが、補足の文章で、「大幅に定員を満たさない状況が続くなど、さらに1学級削減をせざるを得ないことが予測される場合には、後期実施計画の基本方針を踏まえたうえで、統廃合の検討に入ることがある」とされています。</p> <p>現状として、本年度の高千穂高校の在籍数は、直接的行政支援がない中、高校の努力により、1年生109名、2年生104名、3年生121名と三桁を確保していますが、1学級40名定員で本来なら4学級とも40人で満たされなければならないところが3学級分しか確保されていないため、検討対象に入らないとも限りません。</p> <p>高千穂高校がなくなる事に対してのデメリットは、人口減少をはじめ、町としてはかりしれないものがあり、数年後を見据えて早急な対策が必要なのは、誰しも理解している事と思います。</p> <p>現在、高千穂高校独自の努力で生徒確保に励んでいるので、それに加え行政の支援があると違った結果になるものと期待します。</p> <p>又、他の地区において、行政支援の遅れが廃校を加速した事例もあります。高千穂町議会においても、平成29年に1件、平成30年に2件一般質問にあがっている議案でもあります。</p> <p>少子化のうえ、生徒や保護者に多様なニーズがあり、私立校、公立校の選択も多岐にわたり、既に中学校では令和2年度入学に向けた動きが始まっており、町としての支援の早急さが必要です。</p> <p>以上をふまえ、新町長としての具体的な考えをお伺いいたします。</p>	町長 教育長